

環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 **成果報告会 発表資料**

活動団体名：みなべ・田辺地域
世界農業遺産推進協議会

活動地域：和歌山県みなべ・田辺地域

活動におけるテーマ・キャッチコピー

**400年継承してきた私たちの「梅システム」を400年先へ
そしてさらにその先へ保全・継承！**

地域循環共生圏（みなべ・田辺発の脱炭素化・SDGs構想）



地域のビジョンを実現するための成果指標



～豊かで持続可能な地域社会を目指して～
400年継承してきた私たちの「梅システム」を400年先へ
そしてさらにその先へ保全・継承！

短期目標

長期目標

環境

梅加工時に発生する調味残液の有効活用
取り組む事業者数 3社 → 6社

調味残液の活用36社

経済

農業遺産の活動に協力する企業・団体数
1社 → 2社

活動に協力する企業・団体数
14社

みなべ・田辺地域への観光客数
166万人 → 170万人

観光客数
200万人

社会

農業の新規就業者数
23人 → 23人(現状維持)

新規就業者数
34人

地域循環共生圏の理解度
0% → 10%

地域循環共生圏に対する関心度
100%

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）



1	事業の名称	梅加工時に発生する調味残液の有効活用事業	
	事業の概要	みなべ・田辺地域内の事業者が既に取り組始めている調味残液を活用したバイオガス発電に対する理解を深め、環境負荷の軽減に寄与できるかなども見極めながら、効果があると判断できる場合はその活用を推進し、産業廃棄物の排出削減と地域内でのエネルギー循環を推進していく。	想定される課題・ボトルネック 特定の事業者が取り組めただけであり、どれだけの効果があるか未知数である。事業の採算性も含め見極めていく必要がある。 
2	事業の名称	木質バイオマス熱供給による脱炭素化事業	
	事業の概要	地域内で既に導入されている温泉の薪ボイラーやエリア外となるが近隣で進められている木質バイオマス発電の取組を参考に、梅の剪定枝、紀州備長炭の原木確保の際に発生する枝葉、間伐残材等のバイオマス利用について理解を深め、効果があると判断できる場合はその活用を推進し、エネルギーの自給自足と地域経済循環の向上、CO2の削減、管理の行き届かない森林面積の減少を目指す。	想定される課題・ボトルネック 特定の事業者が取り組めただけであり、どれだけの効果があるか未知数である。事業の採算性も含め見極めていく必要がある。 
3	事業の名称	世界遺産を訪れる観光客の流れを変える事業	
	事業の概要	みなべ・田辺地域の近隣には、熊野古道が存在。世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」として登録されており、多数の観光客が来訪している。 観光事業者や地域住民が連携し、農泊や農業体験など新たな商品を開発することで、地域外からみなべ・田辺地域への来訪者を増加させ、みなべ・田辺のファンを増やし、地域を支える関係人口の増加を目指していく。	想定される課題・ボトルネック 当該事業に取り組もうとする人材の不足 

今年度の成果

(本事業に取り組んで良かったこと)

- 11月に開催した「東京大学×世界農業遺産シンポジウム」により地域循環共生圏の考え方を理解し、持続可能な社会を実現していくことの重要性を認識した。また、その取組のヒントが「みなべ・田辺の梅システム」の中にあることを講演いただいたことで、分かり易く地域の方々の自信と誇りの創出につながった。
- 行政、地元の関係者(農業(生産・加工)、林業、観光業の各分野)等これまで縦割りで関わりの少なかった方々が地域循環共生圏をテーマに横断的に話し合いをすることで、それぞれの分野の課題を共有し、かつ未利用資源の活用について意見交換することができた。



地域の活動の上での課題

- 一般の方々には、地域循環共生圏という新たな概念を理解していただくことが難しかった(まだ、十分理解されていないと思う)。
- 引き続き理解を深めてもらえるよう取り組んで行く必要がある。
- 当協議会の地域循環共生圏づくりに対する支援体制もまだまだ十分とは言えないため、整えていく必要がある。



今後の意気込み

- 今後とも、世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」の保全と継承の取組を通じて、地域循環共生圏に対する理解を深め、環境で地域を元気にしていけるよう取り組む所存。
- 持続可能性＝サステナビリティが東京オリンピックのテーマになっている。我々も地球に対して負荷をかけることの無いよう(負荷をできるだけ少なくできるよう)その重要性を説明しながら地域全体で深く理解し、先進的な取組を行うことで地域のブランド力を高め、「みなべ・田辺の梅システム」を400年先へ、そしてさらにその先へ保全・継承して行きたい。



Fostering local power bonds by ume system

